

「守る」という、 おもてなし。

慣れない土地。通じない言葉。読めない案内。
大きなリスクを抱えたまま、
災害に向き合う人たちがいます。

それは、外国からのお客様です。

「地震」なんて知らない。
「避難訓練」なんてやったことない。
その単語すら自国の言葉にはない人もいます。

だから、大阪・関西万博に向けてはじめました。
おもてなし防災プロジェクト。

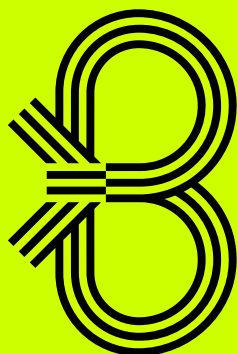
丁寧な接客や、深々としたお辞儀、だけでなく。
万全の防災対策をもって迎え入れること。

それは、日本で暮らす人々の
いのちを守ることにもつながります。

見られないかもしれないけど、美しく。
という、おもてなしの精神のように、
起こらないかもしれないけれど、しっかり備える。

さあ、外国人の目線で防災をアップデートし続けよう。

万博レガシーを実装するために。



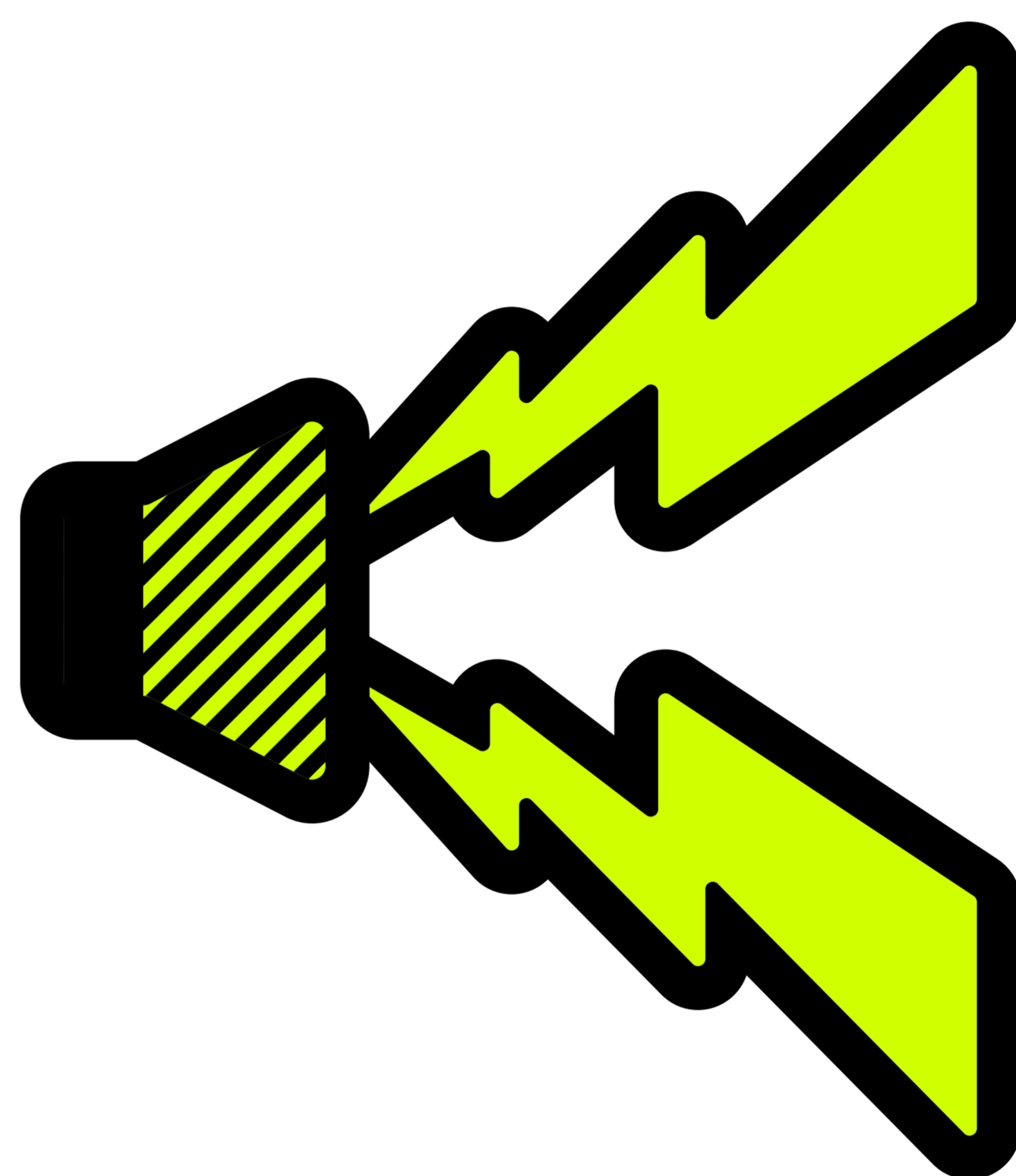
OMOTENASHI
BOSAI
おもてなし防災

詳しくはWEBサイトへ



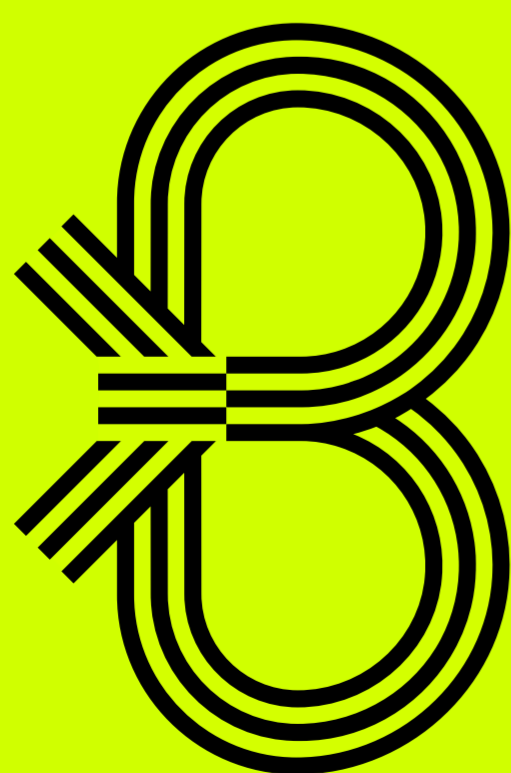
それは、 命のかかった リスニング問題。

災害時、避難情報の多くは日本語で流れます。
そのアナウンスを聞き取れないことは、
外国人にとって命に関わる問題です。
もしものときは、丁寧な言葉遣いではなく、
なりふり構わないジェスチャーで避難誘導を。



「守る」という、おもてなし。

詳しくはWEBサイトへ



OMOTENASHI
BOSAI
おもてなし防災



いざ、ハワイ旅行。 水着。サングラス。 防塵マスク。

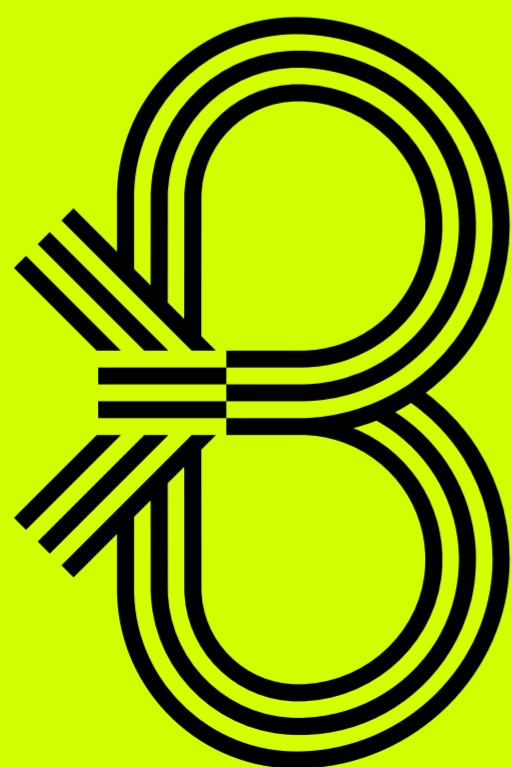
そんな準備しませんよね？

日本人が噴火対策をして
ハワイにいかないように。
外国人も防災対策をせず日本にやってきます。
迎え入れる準備だけでなく、
“もしも”が起こっても、
安全に送り出す準備が大切です。

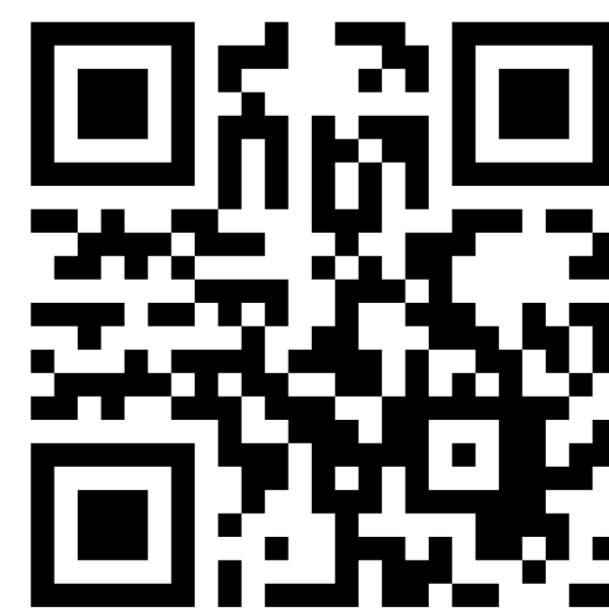


「守る」という、おもてなし。

詳しくはWEBサイトへ



OMOTENASHI
BOSAI
おもてなし防災



「注意報解除」が 読めなかったので、 ずっと不安でした。

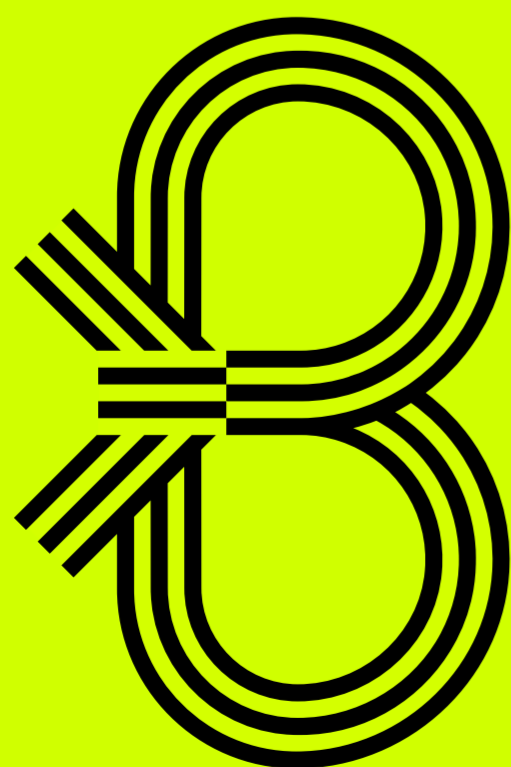
(インドネシア人女性 40代)

熊本地震の際、「注意報解除」が分からず、
解除後も不安を募らせていた方がいました。
もし周りの日本人が声をかけていれば。
もっと早く安心できたかもしれません。
もしものときは、
積極的な声かけをお願いします。



「守る」という、おもてなし。

詳しくはWEBサイトへ



OMOTENASHI
BOSAI
おもてなし防災



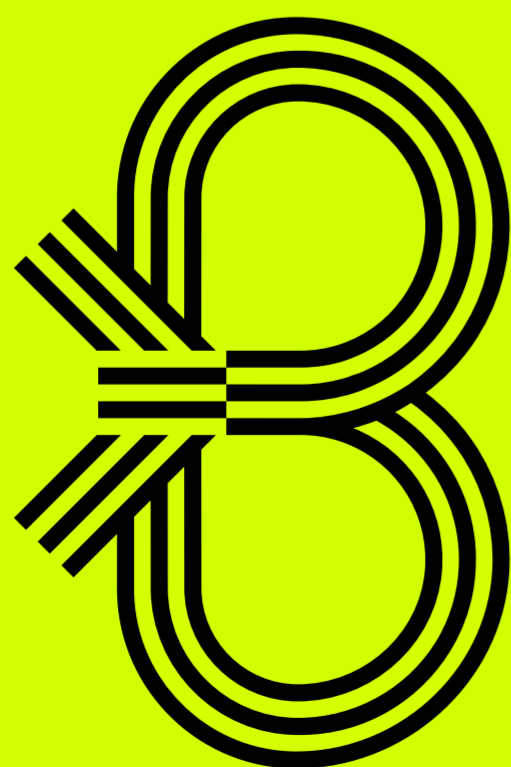
観光ガイドに、 避難場所は 書かれていない。

外国人に人気の日本のガイドブックに、
避難場所の記載はありませんでした。
もしものときに頼れるのは、
私たち日本人のガイドかもしれません。



「守る」という、おもてなし。

詳しくはWEBサイトへ



OMOTENASHI
BOSAI
おもてなし防災

